

Transcontainer-Umschlag

von Dipl.-Ing. Gustav Haussmann

荒 木 智 種

(関東学院大学)

本書は、ハンブルグ（1968年10月1日）で開催されたコンテナ輸送設備展示会のさいに刊行されたものである。著者、G. Haussmann は西独のコンテナ輸送設備分野における研究 でよく知られている。氏は、"fördern und heben" 誌のコンテナ輸送部門の嘱託 Redaktion として現在活躍している。

最近の G. Haussmann からの私信（1969年7月18日附、フランクフルトにて）によれば、著書は、1968年までに発表した数多くの研究報告を集録整理して本書にまとめたと説明している。加えて、著者は、今までの研究報告について次のように述べている。

数年まえに、"Gabelstapler" の書を刊行して以来、数多くのコンテナ輸送設備分野に関する研究報告を行なったが、それらの中で、最も主要と考えられるものを幾つかここに列挙してみたいと附け加えている。

- 1) 》 Der Kommende Stückgut—Umschlag in Europa 《 1966年、見本市特集号、"fördern und heben" 誌、掲載。
- 2) 》 Freifahrbane Transcontainer—Transport und Umschlagsgerte 《 1967～1968に亘るシリーズ。"fördern und heben" 掲載。
- 3) i) 》 Reichhaltiges Angebot für den Kombinierten Verkehr 《56号、1969年5月10日。
ii) 》 Das richtige Container—Umschlagsggerät am richtigen Platz 《 68号、1969年6月7日、いずれも "Deutsche Verkehrszeitung" に掲載。

また、G. Haussmann は、"fördern und heben" 誌、シリーズ（1967年）に執筆した「ISO—コンテナ、大型パレット及びそれらの積み換え設備」についての原稿が

終了後、本書の執筆に当たると明記している。

本書、(Transcontainer-Umschlag) 各章の構成は、つぎのとうりである。

第一章 コンテナ輸送について。

第二章 コンテナ輸送とフラット (Flats)。

第三章 コンテナ輸送の相互作用 (フラットと交通輸送の関連性)。

第四章 コンテナ輸送とフラット用各種型クレーンの積み換え設備。

第五章 コンテナ用積荷の設備。

第六章 オーガニゼーションとコンテナ輸送の経済的利益。

附 コンテナ設備関係会社住所録、参考文献紹介、索引等。

つぎに各章の項目別内容について若干ふれてみると、第一章においては、米国における初期のコンテナ輸送の歴史的発達過程と、併せて1970年～72年代の展望について述べている。次いで、コンテナの意義とはなにか？また欧州におけるコンテナ輸送の重要性とは、について説明している。ひき続き、1966年～72年における海外のコンテナ輸送の発展状況についても触れ、とくに欧州と北米合衆国、欧州と Far East の関係、日本のコンテナ企業、また太平洋におけるその他諸国のコンテナ輸送の状態についても述べている。

第二章では、五項目に亘って説明している。1) ユニット・ロード。2) コンテナの規格。3) I S O の主要設計構造とフラットについて。4) コンテナの材料。5) コンテナの調査と特殊構造等である。そのうち、3項の中では、特にコンテナの主要規格、骨組構造、各角止め金具、コンテナの特性表示、Beamspruchungen やコンテナ調査とテストについて分類考察している。

第三章では、七項目にわたって述べている。1) フラットの応用 (特殊性)、2) "Linertrais" 一鉄道におけるコンテナ輸送の初歩的な段階、3) 内陸輸送 (鉄道) とコンテナ、4) 外航貨物船によるコンテナの効用と役割、5)、6)、7) は、内水、航空、内陸輸送におけるコンテナの役割について記し、そのうち 4) の外航貨物船のところで、Roll-on/roll-off-System (水平移行方式)、Lift-on/Lift-off-System (垂直積載方式) A C L のコンビネーション・システム等について簡明な解説をほどこしている。

第四章も、七項目にわたっているが、本章は、著者の尤も主要とみられる箇所であり、きわめて詳細に分類考察されている。1) クレーンによる積み換え設備、2) コンテ

ナー——つかみ杓 (Spreader)、3) レール使用によるクレーンの設備、4) ポータル、コンテナクレーン。コンテナ、モービルクレーンについて 5) 埠頭、船舶用路、レール等における輸送設備 (油圧、電圧用の輸送設備、近距離用のコンテナ輸送設備) 6) 輸送設備のための Roll-on/roll-off System について (大型ロール、パレット。ターミナル要員。ポルタ、リフトとコンヤック) 7) レール不用によるコンテナ移動の自由きりかえ輸送設備と積み換え設備について。本章では第3項と第7項に主眼がおかれ、前者は、レール使用のクレーン装置について述べている。(外洋航路船用、沿岸用、埠頭用の各種クレーンによる積み換え設備。内水航路輸送とストア・ハウス。レール使用の貨物積みかえ設備。コンテナと他目的使用の Ziwillingskran。"Gemini"——複式クレーン。パラレル、バームシステム。埠頭におけるコンテナの対式クレーン) 以上の分類の中で著者は、実際のかつ技術的立場からみて各種クレーンの効用性について易しく解明している。後者は、フロントとサイドのガーベールステップラ。ポータル—リフティング車。ポータル—ステップラーと腕部振動式ポータル—ステップラー。Sima-Contriler-Lift と Klaus-Seitenlader。Teleskop-Chassis の Goldhofer-Schwinglift とコンテナ、クレーンモービル。コンテナ、ロールリフト、及び Klöckner-Steadman と Murfitt-Umlade システム。Finnischer Heckauflader と FEKA-Muliti-Lift-Contrailer について触れ、個々の技術的、利用操作並びに比較的多くの写真等を挿入しながら解明しているのが目立つ。

第五章、コンテナ輸送の積み換え原則について。Gabelstapler。ホークリフト (Schbgabel-Hochhubwagen) 等各車の能率的、技術操作の効用について説いている。

第六章は、コンテナ輸送システムの手順にはじまり、Haus-zu-Haus へのコンテナ輸送システムのあり方について述べている。結びとしては、コンテナ輸送の合理化組織体制と経済的利益の関連性について多少触れている。

なお、参考のために、西独の "Schiff und Haffen" (Organ der Shriffbautechnischen Gesselschaft e. v; Organ des Germanischen Lloyd) に掲載された本書の書評をここに紹介しておく。

港湾をターミナルとしたコンテナ輸送にたいする関心度は高く、各国の新聞、誌上にてさまざまな形で報道されている。特にジャーナリスト (港湾、海運、運送関係者)

は、非常に複雑きわまりないいわば、この新分野で各種各様の意見が唱えられている。

本書は、特にコンテナ輸送設備分野の技術的効用性、コンテナ各種の材料、コンテナ構造設計等)について、まとまった分類が一貫してなされているのが特徴である。そのうえ著者は、クレーンによる積み換え設備(操作)と各種異なった搬出入の場において、実際の立場からコンテナ輸送積み換えの技術、設備、運営面の解明を的確にほどこしているのが目立つ。かつまた、之等の現状をふまえての基礎的知識を与えながら今後の展望についても触れている。

またコンテナ輸送の最適条件とは何かという問題点についてもタッチしている。したがって、本書はコンテナ輸送設備分野について尤も新しい実務用書でもあり、また良き入門書としても最適なものと言えよう。加えて、米国におけるコンテナ輸送の歴史について概説し、1970~72年代のコンテナの展望にもタッチしている。また、特に複雑な関係とみられる、Transcontainer-Flats-Traffic Companies、三者の関連性についても要約している。最後に、オーガニゼーションとコンテナ、サービスの経済的利益について述べている。即ち、本書は、コンテナ入門書(又は実務書)として広く愛読されるに価するものである。

その他、現在、私の手許にある書評の資料は次のものである。"Binnenschiffarts-Nachrichten", Duisburg, 1968年11月号、"lastauto", Omnibus, 1968年12月号、"der Schlüssel", Wien, 1968年11月号、"ADV-Informationsidienst", "Arbeitsgemeinschaft Deutscher Verkehrsflughäfen", Stuttgart, 1968年11月号、"Tarif-Nachrichten", Düsseldorf, 1968年11月号、"Der Spediteur", Bonn, 1968年11月号、いづれも入門書(実務書)として評価されている。

著者は、港湾ターミナルにおけるコンテナを動かす輸送手段の重要性について非常に深い関心をもっている旨を告げ、コンテナ専用船、セミ・コンテナ船による能率的な方式とこれらを含めたコンテナ輸送量全般をまとめる組織づくり(その他、税関取り扱い、海上保険、衛生公安警察、コンテナ標記の問題等)を合理的に考えださねばならないと私信で述べている。

1968年刊行、163 Seiten (頁)
118 Abbildungen (写真) 2 Tabellen.
16.2cm × 24.0cm, Format (サイズ)
DM 29,80 (定価)
Krausskopf-Verlag, Mainz. (出版社)